

米 世界で株高を演出してきた 金融緩和 来年（2014年）にも終了

1 14版

2013年(平成25年)6月21日 金曜日

米、脱緩和へ先陣

FRB議長「来年にも終了」

米国の景気が回復しつつある為に金融緩和の縮小が打ち出された。

米国から世界に流れていたマネーが逆流すれば、各国の景気に大きな影響を与えかねない。世界経済の先行きに不透明感が増す可能性がある。

景気回復は順調だが、米政府支出の強制削減などの影響で成長が鈍り緩和縮小が遅れる可能性は残る。

2008年秋のリーマンショック後、世界の中央銀行は大量の緩和マネーを市場に流した。FRBは今春、08年9月時点と比べ3、3倍のお金を流している。投資ファンドなどはそれを元手に株を買っていた。

米ダウ工業株平均は09年3月に6500ドルまで下がったが、今年3月に倍以上の1万4200ドル台をつけ市場最高値を更新した。

ダウ、一時250ドル安



米国の金融緩和が年内にも縮小されることになった。主要国は2008年のリーマン・ショック後に金融緩和を続けてきたが、米国はその巻き戻しを始め

米連邦準備制度理事会（FRB）のバーナンキ議長は19日（日本時間20日未明）、市場に大量のお金を流す量的緩和策の縮小を示唆した。今年後半にも縮小を始め、来年半には終了する可能性があるという。

議長発言の影響は世界中に広がった。20日の東京株式市場では、日経平均株価の終値は、前日より230円64銭（1.74%）安い1万3014円58銭に下がった。中国・上海や香港、韓国では株価が年初来安値を更新。20日の米ダウ工業株平均は一時、250ドル超値下

る。世界で株高を演出してきた「緩和マネー」が今後は減ることになり、金融市場にさまざまな影響が出そうだ。▼7面「動揺する市場と「対話」」

がりした。「緩和マネーが減れば、今後は株安になっていく」という見方が市場で広がっているのが背景だ。東京外国為替市場ではドルを買う動きが強まった。午後5時時点では、前日の同時刻より3円06銭円安ドル高の1ドル＝98円09～10銭まで円安ドル高が進んだ。FRBはリーマン・ショック後の2008年11月に量的緩和第1弾（QE1）を打ち出し、12月には実質的なゼロ金利政策も採り入れた。12年9月からは量的緩和第3弾（QE3）をおこなってきた。

今後、緩和縮小で金の流れが逆流する可能性がある。

緩和マネーの「逆流現象」はすでに、5月中旬以降、インドやタイ、インドネシア、ブラジルなどの新興国通貨は軒並みドルや日本円に対して急落。

FRBや日銀から新興国に流れていた緩和マネーが、FRBの緩和縮小の観測を機に逆回転を始めているのだ。

緩和頼みの世界経済は、正念場にさしかかっている。

（筆者 長崎潤一郎）